

将来の夢は「福祉の夢」? 「今を生きること」?

「あら、王ちゃん、早いね、今日も中国から来たの?」と朝、アルバイト先についたら、Aさんは冗談を言ってくれました。Aさんは私がアルバイトをしている高齢者施設の利用者さんです。今年の1月にご主人と一緒に施設に入所してきました。入所したとき、すでに子宮癌だと診断され、余命三か月くらいだと言われました。病気のことを知っていますが、それでも、Aさんは毎日とても前向きで、元気に生活していました。話が好きで、親切な方なので、私が一人で日本で生活していることを知ったら、いつもいろいろと話しかけてくれました。そんなAさんは入所して、一か月後のある日の夜中、病状が急変して、入院することになりました。二日後、退院しましたが、その後も、何回も入院、退院を繰り返しました。最後に入院したのは4月18日です。その日はちょうどAさんの誕生日でした。三日後、朝出勤したとき、Aさんが病院で亡くなったことを教えられました。それを聞いて、頭が真っ白になり、涙がぼろぼろとあふれ出てしまいました。三日前、仕事が終わって、帰ろうとするとき、Aさんは私を呼び止めて、「王ちゃん、これ、娘が持ってきてくれた誕生日ケーキで、持ち帰って食べて、明日、雨が降るそうで、自転車で気を付けてね～」とにこにこ言ってくれました。そんなに親切なAさんがなぜ? どうして? と私はとてもショックでした。隣にいた仲間は私の気持ちを読み取ったようで、「施設はこんなところですから、今日はみんな元気で生活していますが、明日どうなるのか誰にもわからないでしょう」と慰めてくれました。その時、「死」がこんなに身近にあるとはじめて認識しました。

一年前、私は周りの人の反対を無視して、自分の夢をもって、一人で日本に来ました。長い間、夢はなんですかと聞かれたら、私は正直に答えるのが怖かったのです。なぜかというと、福祉の夢、介護の夢だと答えたら、笑われるからです。今の中国の高齢者介護の現場では、ほとんど40代、50代の農村地域から出稼ぎに来た女性です。20代のスタッフがいないとは言えないですが、ほとんどいないのが現状です。でも、中国も今高齢化社会にはいって、しかも、早いスピードで進んでいます。高齢化社会に直面して、自分に何ができるのでしょうか。いずれ自分の親も高齢になって、介護が必要になるのです。その時、自分に何ができるのでしょうか。少しでもいいですから、高齢者のために何か役に立つことをやりたいです。その思いをもって、日本に留学することを決心しました。来日して、もう一年になりました。この一年間、大学で認知症ケアの研究をしながら、先ほど紹介した高齢者施設でアルバイトをしています。介護の仕事は大変ですが、利用者さんが笑顔で「ありがとう」、「あんたがいてくれてよかった」と言ってくれた時、認められたときのうれしさは何よりです。いつまでも忘れられないです。ですから、日本に来てよかったと私は心から思っています。大学でいろいろと専門知識を教えてくれた先生、施設でいつも優しく手伝ってくれた仲間、笑顔で「ありがとう」を言ってくれた利用者さんのおかげで、本当にいろいろな経験ができました。特に利用者さんとの死別を経験して、「今を生きること」の大切さを身をもって学びました。まさに仲間が言ったように、明日どうなるのか誰にもわからないのではないのでしょうか? 明日より、今日、今こそ一番大事ではないのでしょうか。私たちは明日をつかむことはできませんが、今日を大切にすることはできると介護の仕事を通じて、わかりました。

もし今、夢は何ですかと聞かれたら、私は自信をもって、答えます。私の夢は「今を生きること」の大切さを実践し、伝えていくこと、そして、そのことを通じて、「福祉の夢」を実現することです。これからも、自分の努力を通じて、もっと多くの人に高齢者介護の意義と重要性を知ってもらいたいです。そして、自分の夢に向かって、少しでもいいですから、日本と中国の福祉事業のために、何か役に立つことができるように頑張っていきたいと思います。